



# 人と自然のふれあい調査・ 自然と文化を次世代に

てるはの森の会



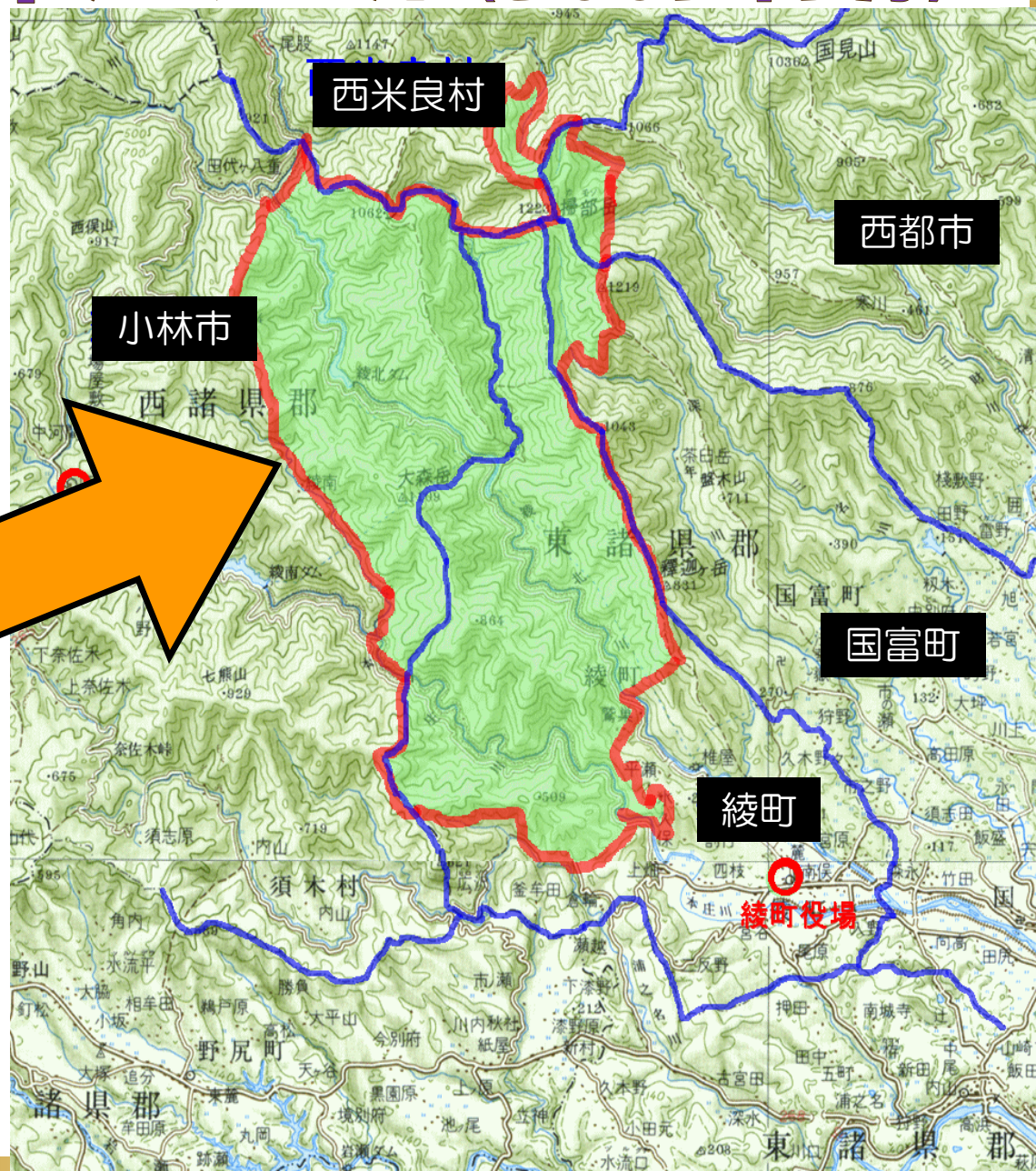
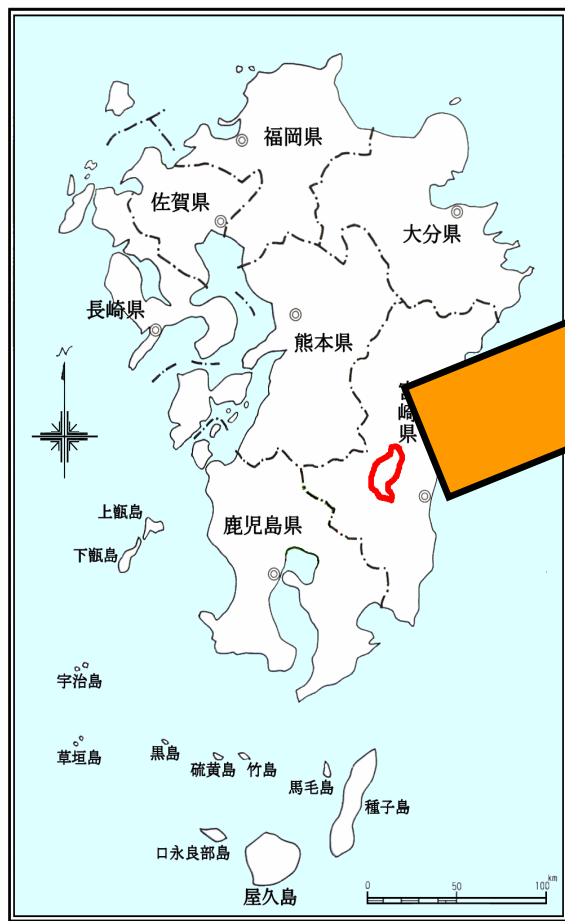
**綾の照葉樹林プロジェクト  
と**

**てるはの森の会の活動**





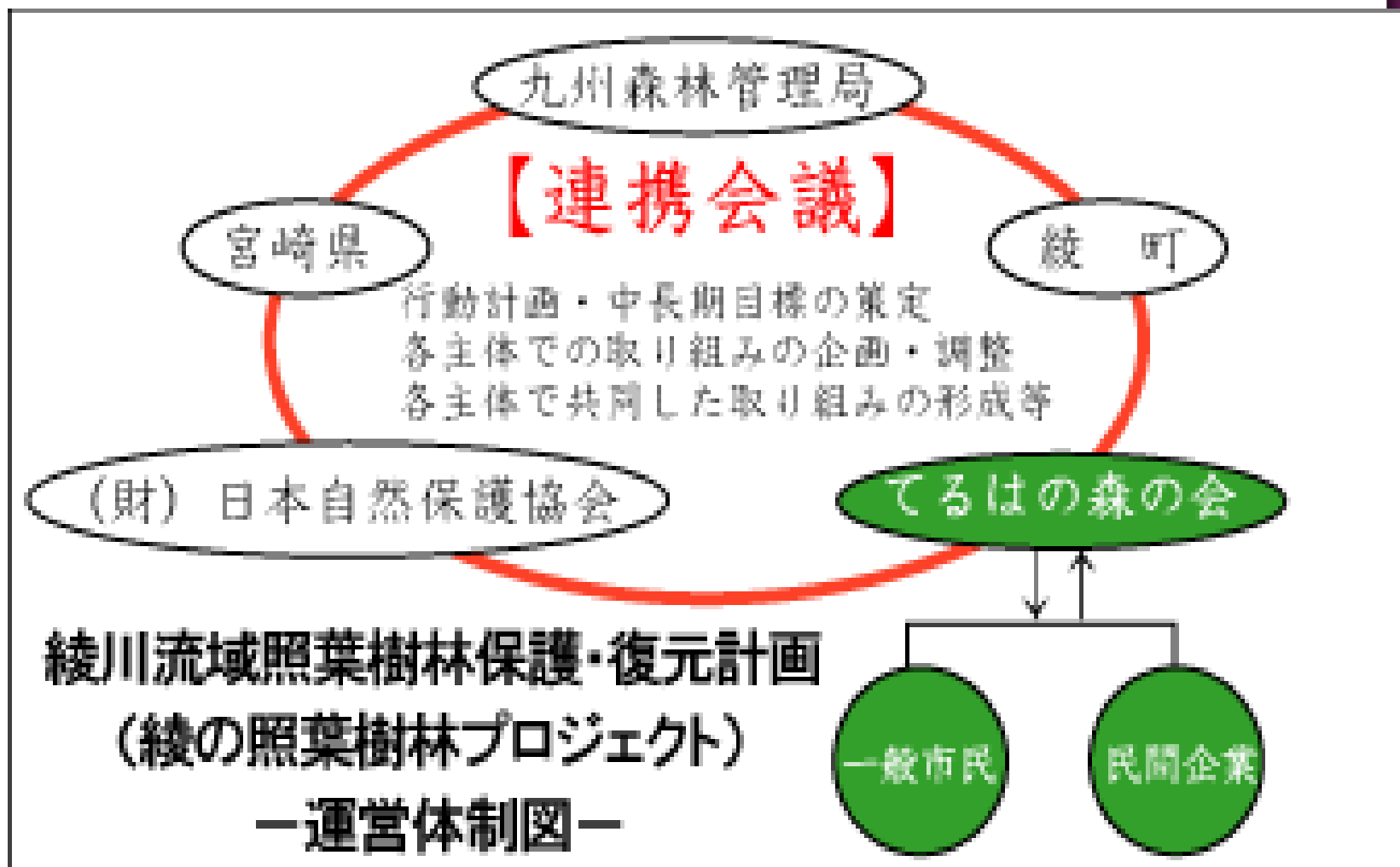
# 綾の照葉樹林プロジェクト(2005年5月)



2013年3月10日 シンポジウム

生物多様性を活かした地域づくりの今 ※無断転載禁止

# 綾の照葉樹林プロジェクト運営体制



# 綾の照葉樹林プロジェクトとは？

## ◆目的

- ①照葉樹林の保護・復元
- ②照葉樹林とその文化を通じた地域づくり

## ◆事業

- ①人工林の計画的な間伐
- ②照葉樹林への人為的な誘導
- ③観光や環境教育等、照葉樹林を  
活かした総合的な地域づくり

# 1. プロジェクトの事務局

## ◎会議の運営

- ・連絡調整会議(月1回開催)
- ・連携会議 (年2回開催)

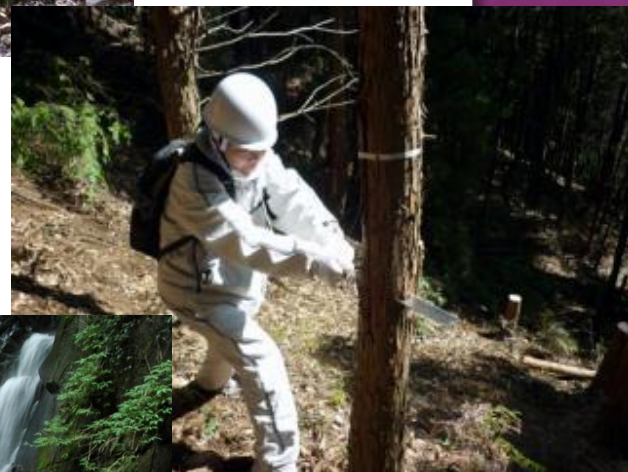
## ◎事務局業務

## ◎ボランティア参加の窓口



## 2. ボランティア参加の窓口

- ◎ 林床調査
- ◎ 里山づくり
- ◎ 遊歩道整備
- ◎ 間伐作業
- ◎ ガイド事業



### 3.照葉樹林研究フォーラム



## 国際照葉樹林サミットの開催

**2011年5月21日~22日**



## 宮崎日日新聞

THE MIYANICHI

2011年(平成23年) 5月22日(日)

# 照葉樹林共生を模索

## 綾で国際サミット開幕

事について照会交換し、人と人との絆を構築する「国際関係科」の授業は、自然の光と音を模倣する「国際関係科サマ・トム」(2016年)、「同好会主催」による「日・韓ビザ開港場」内外外から58人が参加した講演や分科会を通じて理解を深めた。22、24面に関連記事。

国内で人類初の照葉樹林を誇る鹿児島県に初訪した長男は、鹿児島市の前副市長は、観音堂を前に語ったことを語り傳へ、先人が残した自然を未来へついでることを同時に誓う。

とある(二〇二六)。基調講演では、マリシア・マラタの大統領秘書が「ほとんどの国家難民救済が残存率がわずか破産進んでいっている。生物多様性の高い森を残していかなければならない」。中国法院院長物研究の魯元才教授「雲南省の少数民族には『花を手にたふさ利用』という独自の文化があるので、森林生態系であると同時に経済圏

# を模索

## ット開幕

「と保全の必要性を訴えた。午後からはチームに分かれて分科会。照葉樹林の保全と地域経済の自立を両立させるには、自給自足で暮らす地域をつくるのが大切と痛めつけた。最後に「環境的状況が不利な利用促進、持続可能な利用促進」のベネットワークの標榜に努める」とする大会宣言文を採択した。

22日市内の森林を散策する現地見学会がある。



# 4.地域づくりワーキンググループ。



# 5. 人と自然のふれあい調査

地域にある  
「人と自然の豊かなふれあい」を  
再発見し、守り、引き継いでいく、  
それが、地域を考えることにも  
つながる

日本自然保護協会、東京大学とともに

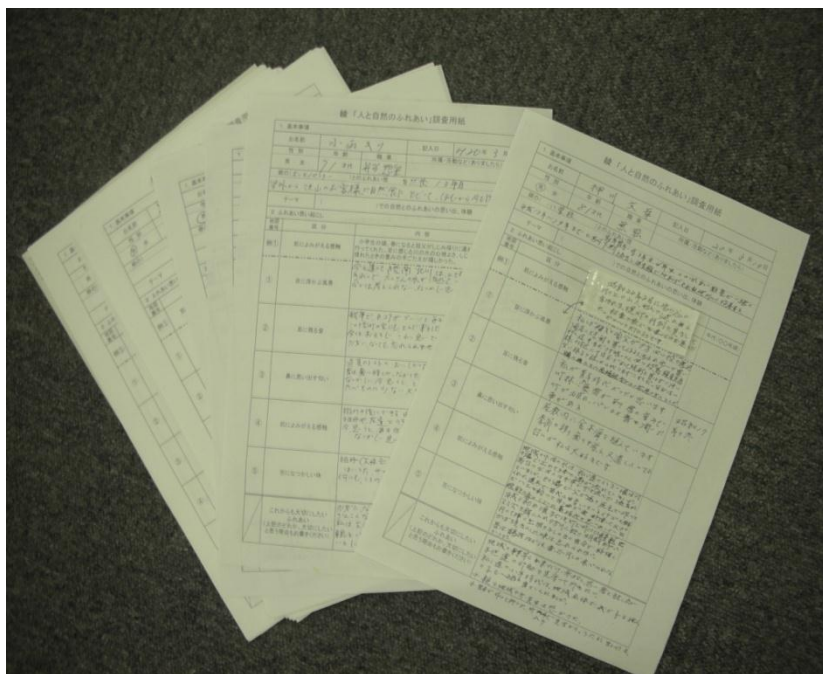


# ふれあい調査の方法

- ①五感によるふれあいアンケート
- ②ふれあい懇談会
- ③現地調査
- ④聞き取り
- ⑤ふれあいマップづくり
- ⑥過去の写真などからの読みとり
- ⑦町村史類などの文献調査
- ⑧どういう形で残すか
- ⑨調査の使い道を考える

# ふれあい調査スタート！

## まずは、①ふれあいアンケート実施



- 目に浮かぶ風景
- 耳に残る音
- 鼻に思い出す匂い
- 肌によみがえる感触
- 舌になつかしい味
- 祭り・神様
- 苦労話



# ②ふれあい懇談会④聞き取りをやりました

6月



4月



2013年3月10日 シンポジウム

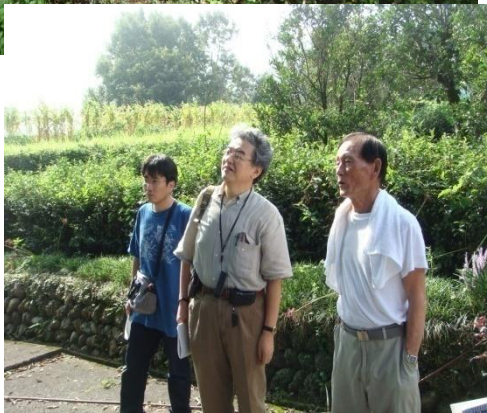
生物多様性を活かした地域づくりの今 ※無断転載禁止



### ③ 現地を歩いて、自分たちの目で見て、 身体で感じて調べました

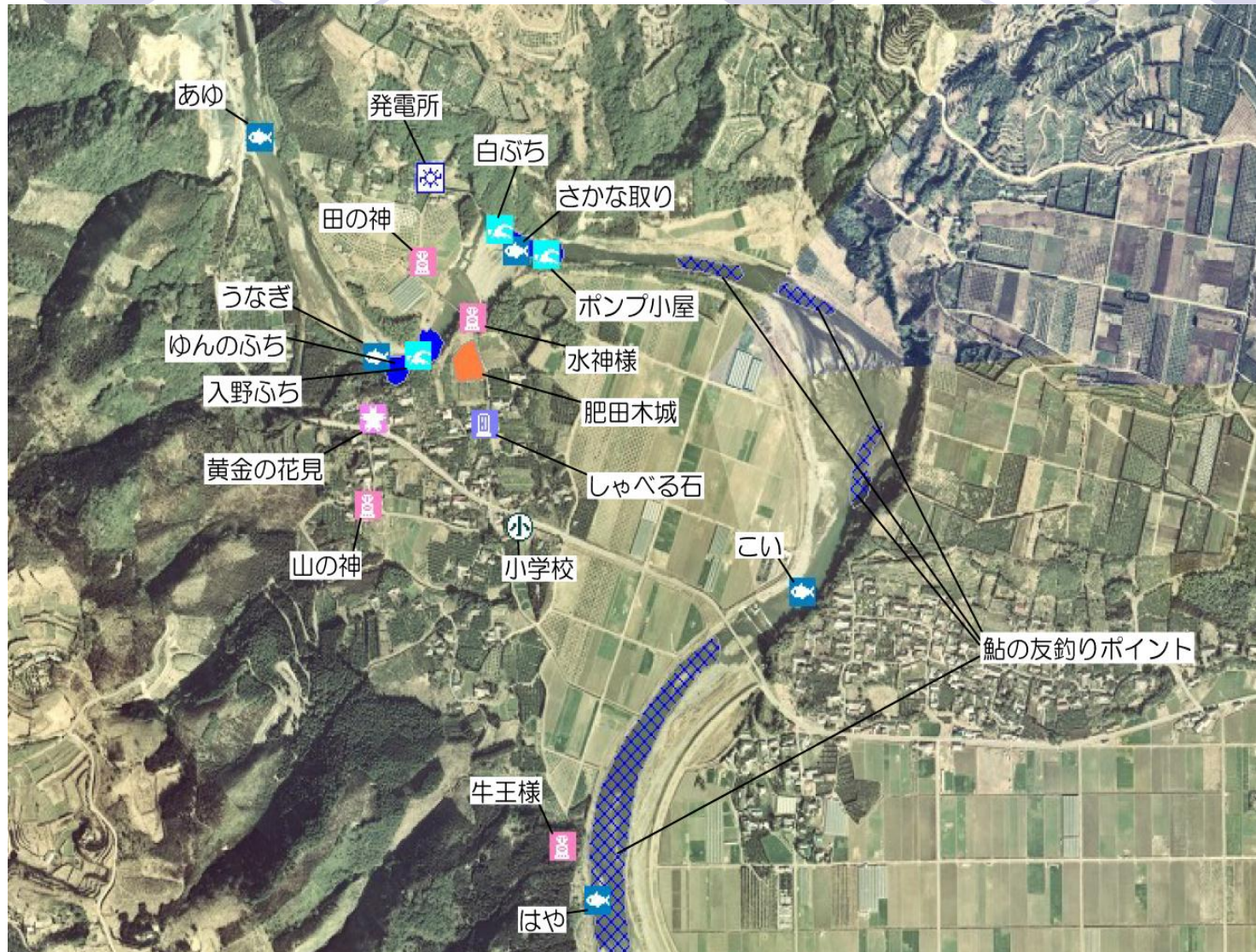


2013年3月10日 シンポジウム 生物多様性を活  
かした地域づくりの今 ※無断転載禁止





## ⑤ふれあいの場所を地図に表してみると





# ⑥過去の写真を見たり、話を聞いて 昔の絵を描いてみました





**マップにのせる地域の大事なふれあいをみんで決め、  
親しみのある楽しいふれあいマップにしました**





# 水の苦勞



## 【古屋の場合】

古屋は、粘土質で井戸が掘れても水が出ないので、本当に水には苦勞した。掘った井戸水も、雨が降るとどっと増えていたので、いかに湧水ではなかったかがわかる。湧水は全く出ていなかったのだ。

雨水も色んなものに利用していた。井川と井戸水は家庭用で使用し、ため池と天水（雨が降ったあと、しばらくためておいたもの）を田んぼに使用していた。川からも水を汲んでいた。

井川とは、山の谷間の、水がたまって窪みになっているところのことをいい、広さは1畳ほどあった。1カ所で3～4軒分の水をまかなっていた。下の集落（下班）に1カ所、上の集落（畑前班）に1カ所、計2カ所あった。井川に行くと、カエルがよく水にポチョーンと飛び込んでいたが、それを飲料水にしていた。

※「井川」とは、谷の水や雨水がたまった場所のことをいい、後で出てくる「涌川（ゆかわ）」は湧水がたまった場所を指す。

※下班、畑前班の「班」は、古屋の中のさらに細かい区分で、隣歩班（りんぽはん）とも呼ばれている。

# ⑧古屋地区では、冊子にまとめました！

地区民総出で行う「うねび焚き」の準備（P30、31 参照）



# ⑨ふれあい調査結果の活用 体験ツアーの実施・フットパスコースづくりへ



# 綾ユネスコエコパークに登録されました (2012年7月)

ユネスコが1971年に発足させた「人間と生物圏  
(Man and Biosphere Programme ; MAB)計画」  
の中心的事業

生物多様性を保全し、人  
間と自然の共生および地  
域社会の持続的な発展を  
めざす

## 核心地域

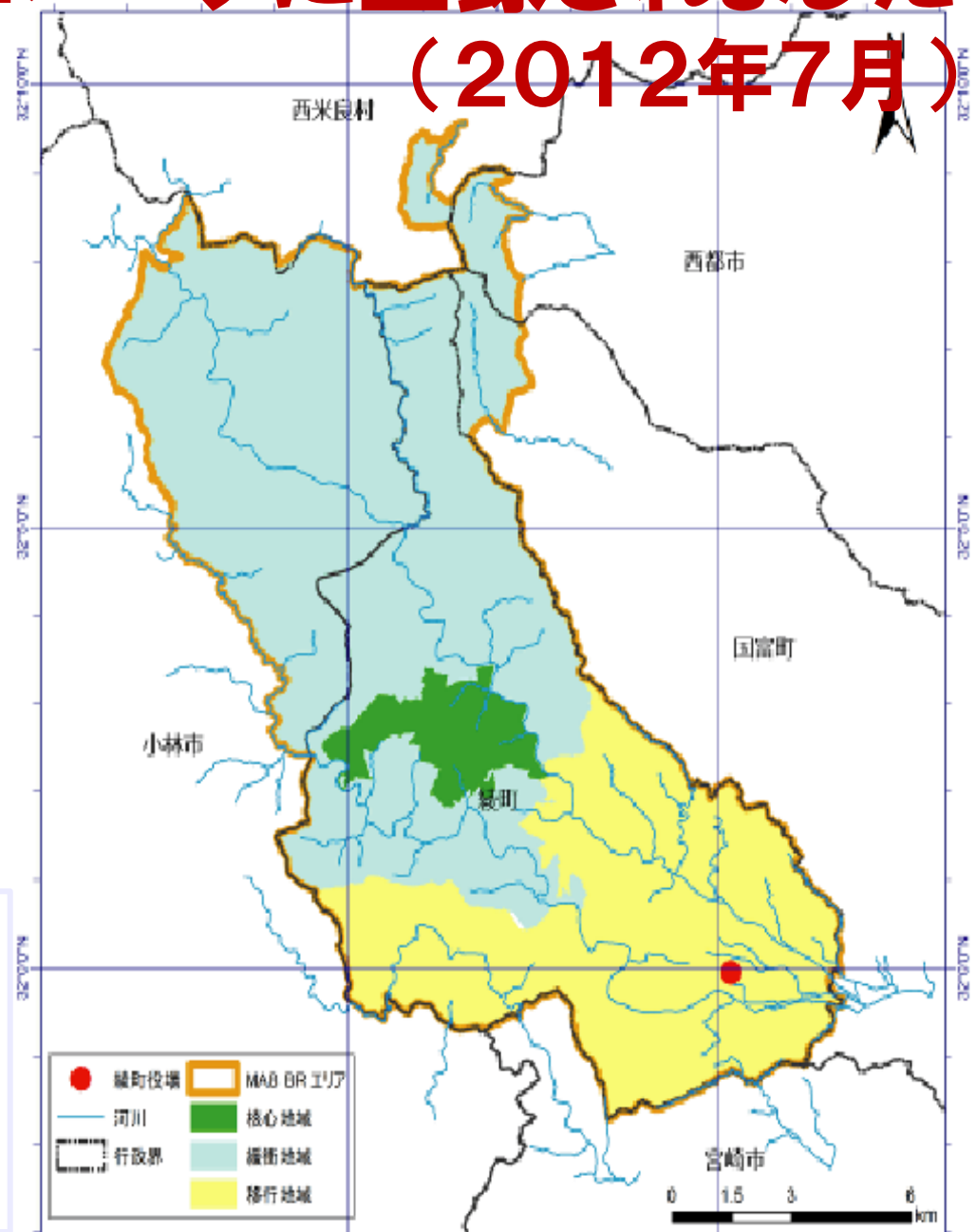
厳格に保護される地域

## 緩衝地域

生態系に優しい活動に利用できる地域

## 移行地域

人が生活し生産活動を行う地域





# 「ESDの学習サイトとしてのユネスコエコパーク」 トマス・シャーフ氏(ユネスコ) 2013. 2. 25



2013年3月10日 シンポジウム 生物多様性を活かした地域づくりの今 ※無断転載禁止





ご清聴ありがとうございました。

てるはの森の会

2013年3月10日 シンポジウム

生物多様性を活かした地域づくりの今 ※無断転載禁止